

「故郷とどう向き合うのか」東北文学（4回）

1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読みがたい遠野物語を、楽しく聞かせて頂き引き込まれました。もう一度読み返してみたい。</li> <li>・“お悔み”とは一緒に嘆き悲しむことと伺い、今迄は同情する程度に考えていたが、本質的意味があった。</li> <li>・賢治が東京に憧れていたとは？根っからの東北人と思っていた。イイハートブ等“カタカナ語”で別世界を作っていたとは…イエハトブの解釈も面白い！</li> <li>・太宰が何故異端となったのか、そして悩み、歪んだ人生を送ったのか、もう少しその人間性を掘り下げてほしかった。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4部作品にせず1つの作品を詳しく説明して頂きたかったと、最初思った。しかし4部作品を通して、捨てた故郷、又戻った故郷、それぞれの思いが伝わってきました。</li> <li>・遠野にしても、今なお現存している伝説の家も有ろうし、太宰の故郷での生家の使用人（友）に対する甘えの精神～小説を通して、最終日の「おらおらで・・・」で故郷は心の中にある大切なもの～比較できました。小説を購入、読むことができました。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠野物語は「早池峰山」登山で行き、「続き石」「かっぱ淵」などへ行きました。本は途中までしか読みませんでした。今回改めて面白い本だと思い、改めて読んでおります。ありがとうございました。全4回とても有意義でした、またお聴きしたいと存じます。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変興味深く、楽しい講座でした。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手意識を持つ作家についての話を聴くようにしている。取り組み易い手がかりとして、今回受賞作品だから読んでおいて欲しいとの講師の言葉に、何年かぶりに若竹作品を購入したが、拒絶反応をおこし読み進めなかった。読み、書き・話すの体験不足だろうか。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上手い構成で4回をまとめられた。特に故郷がない私も、東北のファンになれました。また、旅の仕方もより深いものにできます。</li> </ul>



7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柳田國男の「遠野物語」はまだまだ聴いてみたいと思いました。</li> <li>・宮澤賢治は、どこが良いのかわからないまま、学校を出てしまい、背景を知ることにより詳しくわかった気がします。</li> <li>・太宰治のはちゃめちゃな性格がビックリでした。</li> <li>・若竹千佐子の「おらおらでひとりいぐも」が宮澤賢治とつながっていることがわかった。 4回聴けて良かったです。</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に勉強する事は齢には関係ないことと痛感致しました。</li> </ul> <p>“故郷”は母親の愛情と、うりふたつです。</p> <p>いつでも見守ってくれる場所、人達、伝統行事、すべてが癒されます。</p> <p>汽車に乗って帰る場所ですネ。ポップーとお弁当を食べながら帰る場所でしょうネ。このようなことを思い出される講座で素晴らしかったです。</p> <p>遠野への旅を希望します。有難う御座いました。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変楽しく受講させて頂きました。</li> </ul> <p>それぞれの作家の故郷への思いをわかりやすく教えて頂き、改めて作品を読んだり、その土地を訪れてみたくなりました。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は、大変わかり易く楽しく参加させて頂きました。</li> <li>また、本を読み返してみました。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても良い企画だった。</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり原文を紹介しながら、多面的な解説をされる講師には、いつも深い印象を受けます。</li> <li>・書物から何を読み取るのか、勉強させられた。</li> </ul>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とにかく楽しく勉強させて頂きました。特に先生の文学に対する熱意が強く感じられ、お人柄がにじみ出るような講義でした。</li> <li>・今回講座の対象となった作家の作品は、あまり読んだことが無かったので、これを機会に読んでみたくなりました。</li> <li>・関連する東北の各地にも行ってみたい気持ちが強くなりました。</li> <li>・次回は古典を勉強したいので宜しくお願い致します。</li> </ul>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな講座に参加致しましたが、今回の講座はとても興味深く、4回ではもの足りなく感じました。</li> <li>・このような企画をまた期待して居ります。</li> </ul>



15	<ul style="list-style-type: none"> <li>各講座の本を読んでいて、よく解らないことが、講師の解説で理解できて有難かった。それぞれの作者が如何にこのような作品を書いたのか、その内容にある背景が理解できた。</li> <li>故郷とは、人生の経験の仲から、それぞれが作り出すものではないかと思われました。</li> <li>特に第4回の物語は、これまでの経験や、付き合っていた人達と、折に触れ思い出し、会話することにより、自分の故郷というものを創ってゆくことで“ひとりていくも”ではないのではないか。</li> </ul>
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>生まれてからずっと所沢近辺で生活している私は、故郷について深く考えたことはありませんでした。</li> <li>憧れや進学など色々な理由で上京するであろう人の、“根っこ”には故郷がある。子どもの頃過ごした野、山、川、人との交わりの上に自分が成り立っているんだと、つくづく思いました。</li> <li>4人それぞれの作家の、故郷に対する思いが心に沁みて伝わってきました。</li> <li>及川先生は大学で講義をなさっているだけに、お話しが上手で、先生の話術に引き込まれて行き、毎回アツという間の2時間でした。</li> <li>有意義な時間を過ごした満足感と、次回はどんなだろうと心が躍る・・・とても楽しい講座を受けることが出来ました。</li> </ul>
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の講義4回を是非受講したいなと思いましたのは、1つには内容が4回共興味あるテーマだったからです。日ごろから読みたいなと思いながら、75歳に至るまで結局読んでいないという後悔があり、ぜひこの機会に解説付きで勉強してみたいと思いました。</li> <li>2つ目は、先日及川先生の「古事記と日本書紀」の講座を初めて受けましてお人柄と話の分かり易さに魅了されたからです。</li> <li>今回も予想通り、満足しました、大変良かったです。</li> </ul>
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>及川先生の経験談を交えた丁寧な講義に感心しました。</li> <li>太宰治・宮澤賢治がますます好きになりました。</li> </ul>
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>ところざわ倶楽部や学習センターの文学講座は、いつも興味深く楽しみに聴いています。及川先生の講座は、聞く人と同じ目線で取り上げ、説明して頂きとてもわかり易く、毎回楽しみにしています。</li> </ul>



20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて文芸講座に参加させて頂きました。</li> <li>・宮澤賢治、太宰治は特に興味深く聴きました。宮澤賢治の東京での好奇心にかられて訪れる様子、以前に読んだ「中丸美絵著・斎藤秀雄の生涯」の中に「セロ弾きゴーシュの練習風景」(P105～)の中で新響の練習所に通っている風景の描写があり、その場面と重なって楽しく想像逞しくして聴きました。</li> </ul>
21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠野物語・宮澤賢治・太宰治と進み、何となくテーマに締まりが欠ける感じであったが、最終回を聞いて、テーマの「故郷とどう向き合うのか」にきっちり着地して締まった感じです。</li> <li>・及川先生への師という、小川先生の講座は数回聴き、その博識深い取り組みに感銘を受けたが、ある意味あまりにも知識が深く、ワンポイントにまとめあげる講座に欠けたような感じもあったが、及川先生への講座は若干簡潔であるが、思考を導く話であった。</li> <li>・帰納的な話と演繹的(えんえきてき)な話があると思うが、先生の話は、私にとって、大変理解し易い講座であった。 * (細部から広げる/大局から細部のアプローチ)</li> </ul>
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・及川先生のお話しは、ユーモアをまじえたわかり易いお話しでした。先生のお話しがきっかけとなって、今は両親も、兄も亡くなったふる里に終活の一部として、墓参りと、なつかしい三春の町をゆっくり歩いてみたいと思っています。</li> <li>・今日元気でいても、明日はどうなるかわからない老いの身、毎日ダラ～としてはいけないと、及川先生のおかげで目がさめました。 感謝!</li> </ul>
23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手出身の及川講師ならではの、素晴らしい文芸講座でした。</li> <li>・内容及び説明共に満喫できました。</li> <li>・丁寧な資料提供に感謝いたします。</li> <li>・要望 教室の隅々まで先生の音声が届くように、工夫して下さい。 ピンマイクで音声が一定になるようにとか。(主催者への要望/承知しました。)</li> </ul>
24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠野物語、宮澤賢治、太宰治と、何となく気にしながら、敬遠して居りました。少しだけですが、お近づきになった気分。</li> <li>・気にしつつ、過ごした本に光を当てて頂いて有難うございます。</li> <li>・若竹さんの本も楽しみです。</li> </ul>



25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座は非常に良かったと思います。</li> <li>・及川先生の知識の豊富さ、準備資料の充実、熱の入った講義と、いづれも満足できる内容だったと思います。</li> </ul>
26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのテーマも大変興味深くきかせて頂きました。</li> <li>・「遠野物語」の理解の仕方、賢治の物語にこめた自身の思いも理解出来ました。</li> <li>・東北の地理も歴史もあまり知らなかった若い時に読んだ、「小説津軽」も、今回読み直してみて、時代背景も含めて、新しい理解が出来たと思います。有難う御座いました。</li> </ul>
27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何より先生が素晴らしい！聞いていて楽しいです。</li> <li>・テーマも良いが、1回あたりの材料が多すぎる。もう少し絞って頂いた方が良い。</li> </ul>
28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもわかり易い講義でした。先生に感謝いたします。</li> <li>・風邪を引いて第3回「太宰治」を欠席してしまい残念でした。</li> <li>・若竹千佐子さんの「おらおらでひとりいぐも」は予想をはるかに越えた作品だと感じました。役に立ちました。有難うございました。</li> </ul>
29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ところざわ倶楽部」の活動に参加させて頂いてきた私は、高齢大の友人の人脈で「文芸講座2回目」「祭研究会4～5回」入れて頂くことが出来ました。</li> <li>・どのイベントも、充実していて、勉強になりました。開催の情報をいち早く見つけることが出来た今回は、特に感謝です。</li> <li>・いつも講師との深い交流をベースに立案されている様子にて、関係者の方の努力を思います。</li> <li>・今、両神村出身の大谷藤子を読んでいます。何せどう勉強してゆくのか？見当もつかずです。</li> </ul>
30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回趣しろく、楽しみに伺っております。</li> <li>・「遠野物語」は、一人では読んでいてもわからないが、講座で聴いて深く理解できました。</li> <li>・宮澤賢治だけで4回やってもいいように思います。もっともっと深く作品について、お聞き出来たら良かったなと思います。</li> <li>・太宰治の「津軽」を10代で読んだとき、つまらないと途中止めてしまったことを思い出しながら読み返し、この年齢になったので、良さが解かるのかなと思いました。</li> </ul>

31	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 4人の作家の作品は少し読んだことがあります。今回、取り上げて下さったものは題名だけ知っていましたが、今回の受講にあたって、少しでも読みました。</li> <li>• 4日分を続けて読みますと、正に作家の共通項のようなものが感じられてきました。素っ頓狂、現実離れ(仮想的)、不気味さ、等々どの作家にも感じられました。何か東北特有の風土現象なのでしょうか。長い冬が人々の心を閉ざされた暗い心象風景に遊ばせるのでしょうか。</li> <li>• こうした形で文学を学ぶ経験に出会い、様々な角度から切り込んでいったら文学・随筆・散文などに新しい発見で新たな感動も生まれると思いました。とても面白い経験でした。</li> <li>• 太宰治の「津軽」で青森の行程を辿る先生のお話はユーモラスで臨場感があり歩いている気分になりました。</li> </ul>
32	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 及川先生の講義は分かり易く、私にとっては新しい発見もあり、楽しい講座でした。有難う御座いました。</li> </ul>
33	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 初めて参加させて頂きました。来春、岩手・青森に旅行するつもりです。</li> <li>• その前に勉強できるきっかけになり、良かったです。でも、どの本も最後まで読めていないので、完読してから行けたらと思っています。</li> <li>• 東北弁がなかなかスーと入ってこなくて難題でした。</li> <li>• 講座内容ではないのですが、先生のお話しが、後方の席だと、マイクが離れると聞き取りにくくなったので、少し疎外感お感じました。</li> </ul>
34	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 機会がありましたら、 <ol style="list-style-type: none"> <li>1、 司馬遼太郎について</li> <li>2、 平家物語について</li> </ol> </li> </ul>
35	<ul style="list-style-type: none"> <li>• できれば古典を望みます</li> <li>• もし、及川先生にお願いするようでしたら、先生の専門分野の講座を聞いてみたいです。</li> </ul>
36	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本を読んだだけでは分からない部分など、解説して話して頂き良く分かりました。難しい解説ではなく、学生に授業で話しているような感じがし、すうっと入ってくるようでした。</li> <li>• 太宰治も作品からは分からないことも、お話を聴くことで知らないことが分り、賢治もただ温かな人だと思っていたのですが、そうでない面もあると知り大変興味が出てきました。4回の講座面白かったです。有難う御座いました。</li> </ul>

37	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 太宰治の「斜陽」の文字を見て参加しようと、久しぶりに「生涯学習センター」に通う</li> <li>• 宮澤賢治—岩手山</li> <li>• 太宰 治—津軽富士/岩木山</li> <li>• 遠野 一—八角山 遠野を訪れたいと思う。</li> <li>• 「自分より大事な子供などいない」 太宰治の「桜桃忌」を意識しての表現か？</li> </ul>	
----	--	---

## 文芸講座にご参加頂きました皆様、また、HP ご覧の皆様

東北文学「故郷とどう向き合うのか」の4回連続講座に感想を寄せて頂きました37名の方有難う御座いました。今回の分は、文芸講座についての感想を第1弾として掲載いたしました。第2弾「故郷」への思い、エピソードは後日掲載予定です。

第1弾のNO1～37の番号が第2弾の番号と重なり、同じ番号は同一の方のものです。

- 第1回 柳田 國男 「遠野物語」
- 第2回 宮澤 賢治 岩手山/アメニモマケズ
- 第3回 太宰 治 小説「津軽」
- 第4回 若竹千佐子 「おらおらでひとりいぐも」



今回の文芸講座に参加されていない皆様、上記の本を読まれている方、HPにご感想をお寄せ下さい！また、「故郷」についてどんな思いをお持ちでしょうか？

「故郷」(生まれ育った土地)“故郷忘じ難し”ではありますが  
4回の講座を通じて、先生の“故郷観”に触れ、講座に参加された  
皆さんは、「故郷」に対する概念に厚みが増したのではないのでしょうか  
＝自分自身をつくりあげたきた“根っこ”に故郷は由来かと＝

事業部長 佐藤 重松

